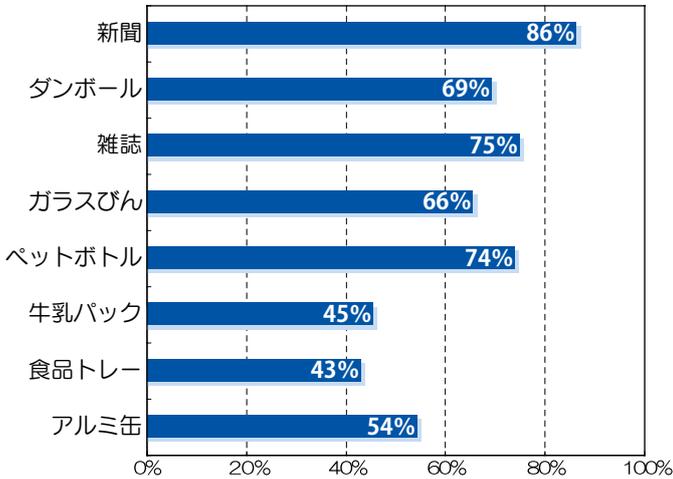


一般廃棄物処理基本計画に関するアンケート結果 (抜粋)

問 資源ごみ（新聞・ダンボール・雑誌・ガラスびん・ペットボトル）をリサイクルしていますか？

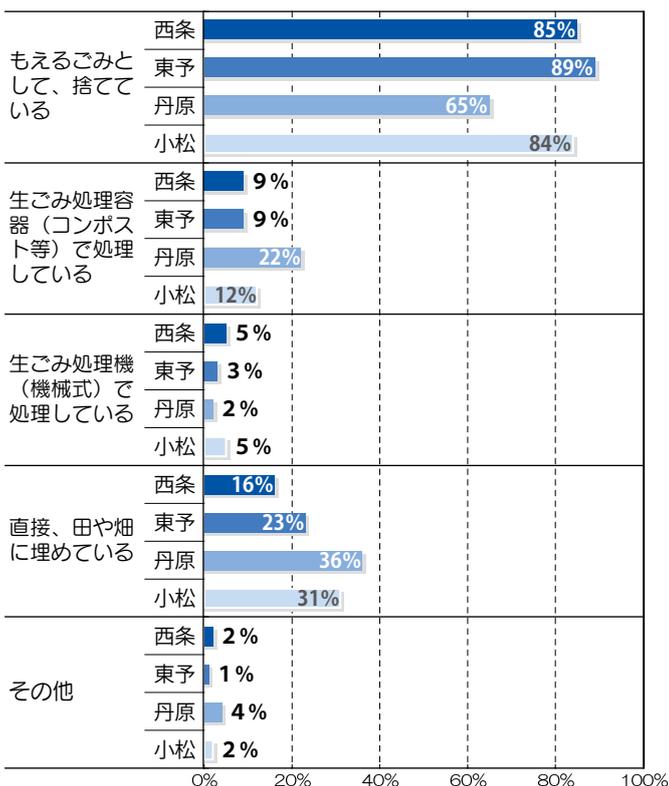
「新聞」が86%と最も多く、以下「雑誌」、「ペットボトル」、「ダンボール」、「ガラスびん」、「アルミ缶」、「牛乳パック」、「食品トレー」の順となっています。



問 生ごみをどのように処理されていますか？

最も回答数が多かったのは、「もえるごみとして捨てている」で84%あり、以下、「直接庭や畑に埋めている」22%、「生ごみ処理機（コンポスト等）で処理している」11%、「生ごみ処理機（機械式）で処理している」4%となっています。

地区別にみると、各地区とも「もえるごみとして捨てている」と回答した人の割合が最も多いですが、西条・東予・小松地区は約84~89%、丹原地区は63%と、丹原地区が他の地区と比べて低くなっています。

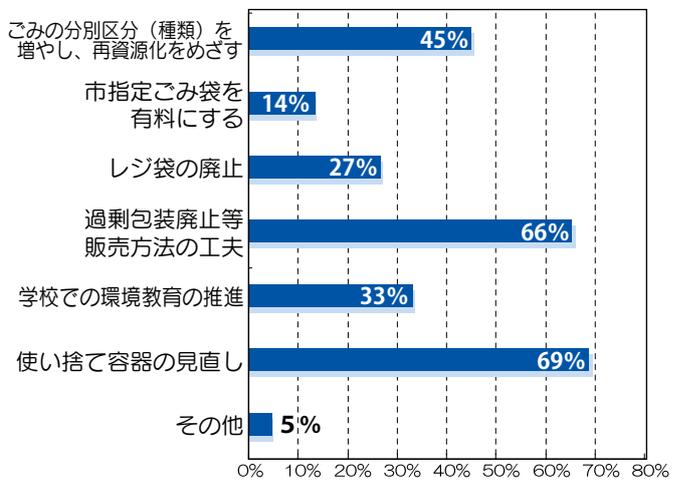


調査内容

- ごみの出し方・分け方、分別協力に対する市民の考え方など
- 減量化・資源化に有効な対策、ごみ処理有料化に対する賛否など

問 ごみの減量化・資源化を推進するために、有効な方法は何だと思いますか？

「使い捨て容器の見直し」と回答した人の割合が69%と最も多く、以下、「過剰包装廃止等販売方法の工夫」、「ごみの分別区分（種類）を増やし、再資源化をめざす」、「学校での環境教育の推進」、「レジ袋の廃止」、「市指定ごみ袋を有料にする」となっています。



問 ごみ袋の完全有料化の導入についてどう思いますか？

ごみ袋の完全有料化が「必要である」（「有料化すべき」＋「やむを得ない」とする人の割合は、37%となっています。ごみ袋の完全有料化を「有料化すべきでない」と回答した人の割合は49%となっています。

地区別にみると、「必要である」と回答した人の割合は、西条地区が最も多く40%となっています。以下、小松・東予地区は33%、丹原地区は32%の順となっています。

年代別にみると、「必要である」と回答した人の割合は50歳代が39%と最も多く、次に、29歳以下が38%、60歳代以上が36%、30歳代と40歳代は35%となっています。

